

印刷機の 簡易マニュアル

(詳細は別冊「取扱説明書」参照)

RISOGRAPH SF635

2020.05.01

学生支援課

目次

1. 使用ルール、操作手順(概要)	3
2. 印刷用紙について	4
3. プリントの範囲について	5
4. 各部の名称と働き(給紙側)	6
5. 各部の名称と働き(排紙側)	7
6. 操作パネル	8
7. プリントの流れ(製版と印刷)	9
8. プリント前の準備①(給紙台と用紙のセット)	10
9. プリント前の準備②(給紙台の閉じ方)	11
10. プリント前の準備③(排紙台のセット)	12
11. プリント前の準備④(排紙台の閉じ方)	13
12. 紙原稿をセットする	14
13. 紙原稿をプリントする	15
14. 印刷物を取り出す	16
15. 製版時の画像処理機能	17
16. 製版時の画像処理機能(原稿モード①)	18
17. 製版時の画像処理機能(原稿モード②)	19
18. 製版時の画像処理機能(写真原稿①)	20
19. 製版時の画像処理機能(写真原稿②)	21
20. 製版時の画像処理機能(読取濃度)	22
21. 製版時の画像処理機能(固定変倍)	23
22. 製版時の画像処理機能(独立・ズーム変倍)	24
23. 製版時の画像処理機能(原稿連写①)	25
24. 製版時の画像処理機能(原稿連写②)	26

使用ルール、操作手順(概要)

【使用ルール】

- ・ 輪転機(印刷機)の受付終了は、16時15分です。
- ・ 使用時間は、16時45分までです。
- ・ サークル活動上、必要なものに限り使用する。
- ・ 原稿1枚(1頁)当たりの印刷枚数が20枚以上のものに限り使用する。
- ・ 原稿が全体的に黒すぎるものは印刷しない。
→ マスターがもろく、インクが多量に出て、故障の原因となる。

【操作手順(概要)】

(本機はコピーではなく、孔版印刷機です。)

- ①右側の電源スイッチを入れる(通常はONになっている)
- ②「ウェイクアップ」ボタンを押す(スリープ状態のとき)
- ③利用カードを差し込む
- ④タッチパネルの「カウンター表示」をタッチし、「トータル」及び「マスタートータル」の数値を記録する
- ⑤印刷用紙をセットする
- ⑥原稿をセットする
- ⑦「スタート」ボタンを押す
アイドリング、製版終了後、1枚プリントされます
- ⑧印刷枚数を入力し、「スタート」ボタンを押す(印刷が始まります)
- ⑨印刷終了後、タッチパネルの「カウンター表示」をタッチし、「トータル」及び「マスタートータル」の数値を記録する
- ⑩利用カードを抜く
- ⑪窓口で使用結果を報告する
輪転機使用申込書にカウンター数値を記入する
印刷物を一式提出し、利用カードを返却する

印刷用紙について

用紙について

■ サイズ・重さについて

使用可能な用紙は以下の通りです。

サイズ	100×148 mm ～ 310×432 mm
重さ	46 ～ 210 g/m ²

- オプションの排紙台 W 装着時は、[用紙サイズ登録]を設定することで 310×555mm まで使用できます。ただし、紙質や用紙サイズによっては、紙崩れが安定しない場合があります。

(☞ 113 「不定形の用紙を登録する [用紙サイズ登録]」)

(☞ 53 「不定形の用紙を使う [用紙サイズ]」)

- 本機では、以下の用紙が定形サイズとして検知されます。

A3☐	297×420 mm
A4☐	210×297 mm
A4☐	297×210 mm
A5☐	148×210 mm
B4☐	257×364 mm
B5☐	182×257 mm
B5☐	257×182 mm
B6☐	128×182 mm
ハガキ☐	100×148 mm

- 用紙は、機械の性能やインクの特性を十分に活かす「理想用紙」、「理想環境用紙」の使用をおすすめします。詳細については、本体お買い上げの販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。
- 本機の仕様で定められている範囲を超える用紙をご利用いただく場合は、その紙に対しての通紙および印刷に関しては製品保証対象外となります。

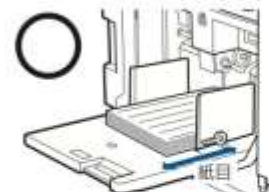


- ▶ 本機仕様内の「用紙サイズ」および「用紙の重さ」であっても、紙質・環境・保管状態などにより通紙できない場合があります。あらかじめ、ご了承ください。詳しくは、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にご相談ください。

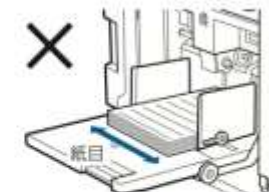
■ 紙づまりや給紙不良を避けるために

- 用紙は、紙目（繊維の流れ）が通紙方向に沿うようにセットしてください。紙目が通紙方向に直交する方向ではコシが弱くなるため、紙づまりの原因となることがあります。

縦目（通紙方向に平行）



横目（通紙方向に直交）



紙目を確認するには、紙を裂いてみると分かります。まっすぐに裂ける方向が、紙目です。



紙目に沿っていると、まっすぐに裂ける。



紙目に沿っていないと、まっすぐに裂けない。

- 裁断が悪い用紙や表面が粗い紙（画用紙など）は、よくさばいてから使用してください。
- 使用する用紙によっては機械の使用時に紙粉が発生することがあります。清掃、換気を充分に行うように心がけてください。
- 厚紙（画用紙など）や、表面が滑りやすい用紙を使用するときは、給紙圧レバーや排紙台の紙揃えプレートを調節してください。
- (☞ 28 「プリント前の準備」)
- なるべくカールしていない用紙を使用してください。やむを得ず使用する場合は、山なりになっている面を上にしてセットしてください。



- 印刷物の天方向（排紙方向の先端）に余白が少なすぎる場合や、天方向に密度の濃い画像がある場合に、用紙がドラムに張り付いてしまうことがあります。その場合は、天方向に余白ができるように印刷位置を下げるか、原稿の天地を 180 度回転して製版し直してください。

■ 用紙の保管について

用紙は湿気の少ない場所に保管してください。湿気を含んだ用紙は、紙づまりや印刷品質の低下の原因になります。

プリントの範囲について

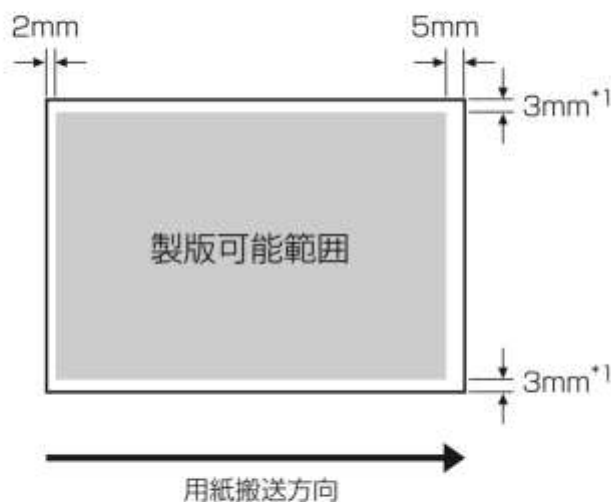
■ 最大印刷範囲

本機で印刷できる最大範囲は以下の通りです。

機種	最大印刷範囲
SF935/635	291×413 mm
SF625	251×357 mm

■ 製版範囲

給紙台にセットした用紙サイズで、製版範囲が決まります。製版範囲は、用紙サイズに対して、下図の余白を除いた範囲です。



* 1：定形サイズ of 用紙を使用した場合の数値です。不定形サイズ of 用紙を使用した場合は、5mm になります。

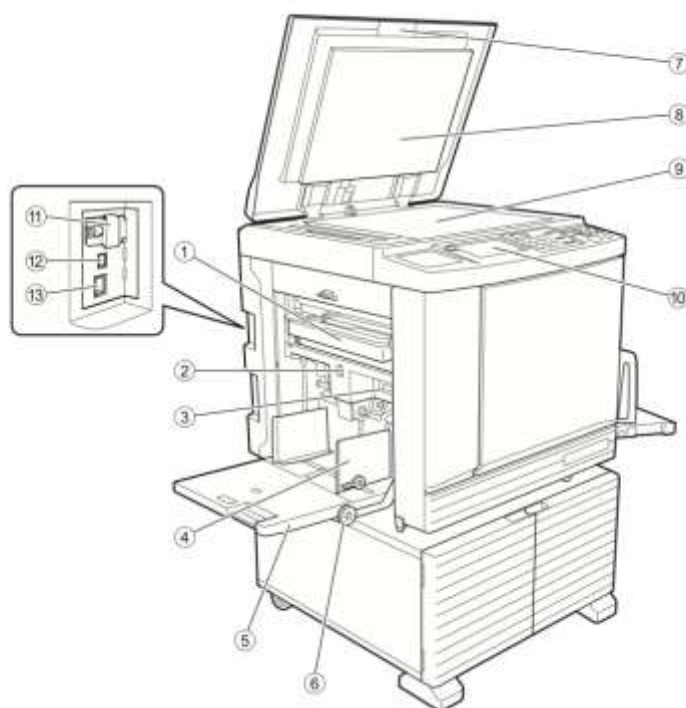
原稿は、上記の余白を考慮して作成してください。



- ▶ 大きな用紙をセットしても、製版範囲が最大印刷範囲を超えることはありません。
- ▶ [フルサイズ製版] (☐ 54) を使っても、用紙の先端から 5mm の範囲は製版されません。

各部の名称と働き(給紙側)

給紙側



① 排版ボックス (☐ 135)

排版されたマスターを収納します。

② 給紙台上下ボタン (☐ 28)

用紙を載せ換えたり追加したりするときに、給紙台を上昇または下降させます。

③ 給紙圧レバー (☐ 28)

用紙の紙質に合わせて、給紙の圧力を調節します。

④ 給紙フェンス (☐ 28)

用紙の幅に合わせてスライドさせ、用紙のずれを防ぎます。

⑤ 給紙台 (☐ 28)

用紙を載せます。

⑥ 左右位置調整ダイヤル (☐ 68)

左右方向の印刷位置を調整します。

⑦ 原稿台カバー (☐ 31)

原稿をセットするときに開閉します。

⑧ 原稿パッド (☐ 143)

⑨ 原稿台ガラス (☐ 31)

原稿を下向きにセットします。

⑩ 操作パネル (☐ 21)

各種操作を行います。

⑪ メモリーカードスロット (☐ 36)

「ホールド」機能を使うためのメモリーカードを装着します。

⑫ USB コネクター (☐ 12)

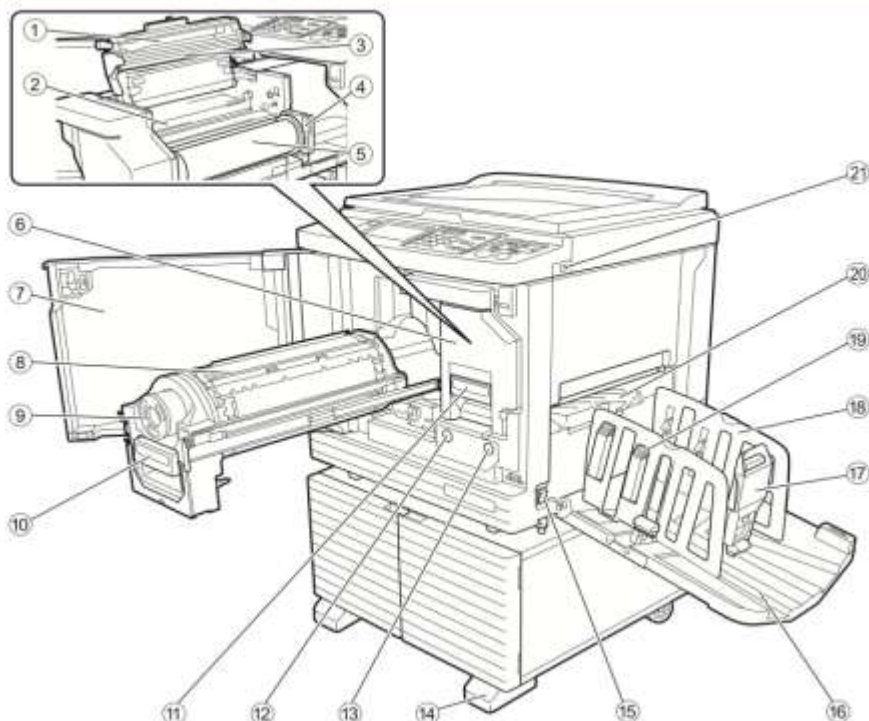
パソコンと接続するためのUSBケーブルを装着します。

⑬ LAN コネクター (☐ 12)

ネットワークに接続するためのイーサネットケーブルを装着します。

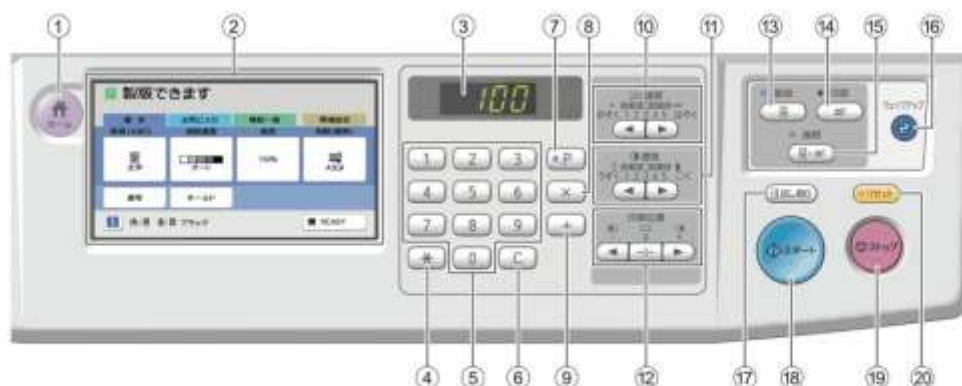
各部の名称と働き(排紙側)

排紙側



- | | |
|------------------------------------|------------------------------------|
| ① 製版ユニットカバー (☐ 132) | ⑬ 製版ユニット OK ボタン (☐ 131) |
| ② マスターガイド (☐ 132) | ボタン点灯時に、製版ユニットを引き出せます。 |
| ③ サーマルヘッド (☐ 142) | 消灯しているときは、ボタンを押して点灯させてから引き出してください。 |
| ④ マスターロールストッパー (☐ 132) | |
| セットしたマスターロールを固定します。 | ⑭ 補助足 |
| ⑤ マスター (☐ 131) | ⑮ 電源スイッチ (☐ 32) |
| ⑥ 製版ユニット (☐ 131) | 電源の ON/OFF を切り替えます。 |
| ①～⑤をご覧ください。 | ⑯ 排紙台 (☐ 29) |
| ⑦ 前カバー (☐ 131) | 印刷物が排出されます。 |
| ⑧ ドラム (☐ 137) | ⑰ ストッパー (☐ 29) |
| ⑨ インクボトル (☐ 134) | スライドさせて、用紙のサイズに合わせます。 |
| ⑩ ドラムレバー (☐ 137) | ⑱ 排紙フェンス (☐ 29) |
| レバーを握ってドラムを引き出します。 | スライドさせて、用紙のサイズに合わせます。 |
| ⑪ 製版ユニットレバー (☐ 131) | ⑲ 紙揃えプレートノブ (☐ 29) |
| レバーを握って製版ユニットを引き出します。 | ノブを押すと、紙揃えプレートが出ます。 |
| ⑫ ドラム OK ボタン (☐ 137) | 印刷物の紙揃えを良くします。 |
| ボタン点灯時に、ドラムを引き出せます。 | ⑳ 排紙ウイング (☐ 75) |
| 消灯しているときは、ボタンを押して点灯させてから引き出してください。 | ㉑ USB スロット (☐ 39) |
| | 認証用またはプリント用の USB メモリーを挿入します。 |

操作パネル



- ① **【ホーム】キー (22)**
[ホーム] 画面を表示させるときに押します。
- ② **タッチパネル (22)**
- ③ **枚数カウンター**
印刷枚数や各種設定の入力値が表示されます。
- ④ **【*】キー**
[メモリー] (83) を呼び出すときや、[プログラム] (79) で項目間を移動するときなどに押します。
- ⑤ **テンキー**
印刷枚数や各種設定値を入力するときを押します。
- ⑥ **【C】キー**
入力した文字や数字を取り消すときに押します。
- ⑦ **【P (プログラム)】キー (79)**
[プログラム] を呼び出すときに押します。
[プログラム] が ON のときは、キー上のランプが点灯します。
- ⑧ **【×】キー**
[プログラム] (79) で項目間を移動するときを押します。
- ⑨ **【+】キー**
[プログラム] (79) で項目間を移動するときを押します。
- ⑩ **印刷速度調節キー (66)**
印刷速度を調節するときを押します。キー上部のランプに、そのときの速度が表示されます。
- ⑪ **印刷濃度調節キー (67)**
印刷濃度を調節するときを押します。キー上部のランプに、そのときの印刷濃度が表示されます。
- ⑫ **印刷位置調整キー (68)**
製版後、天地方向の印刷位置を調整するときを押します。
- ⑬ **【製版】キー (32)**
製版基本画面に切り替えるときに押します。
- ⑭ **【印刷】キー**
印刷基本画面に切り替えるときに押します。
- ⑮ **【連続】キー (26)**
[連続] の ON/OFF を切り替えるときに押します。
[連続] ON のときは、キーの上側のランプが点灯します。
- ⑯ **【ウェイクアップ】キー**
・本機がスリープ (節電) 状態のときは、キーが点灯します。押すと、使用可能な状態になります。
・認証機能 (115) が有効な場合、認証されている状態のときにキー全体が点灯します。押すと、認証が解除されます。
- ⑰ **【試し刷り】キー (32)**
試し刷りをするときを押します。
- ⑱ **【スタート】キー**
製版や印刷を開始するときや、各種動作を実行するときを押します。
キー上のランプは、動作できるときは点灯、動作できないときは消灯しています。
- ⑲ **【ストップ】キー**
実行中の動作を中止するときを押します。
ただし、製版動作中は、製版終了後に停止します。
- ⑳ **【リセット】キー**
現在の設定を初期値に戻すときや、トラブル処理後にエラー表示を解除するときなどに押します。

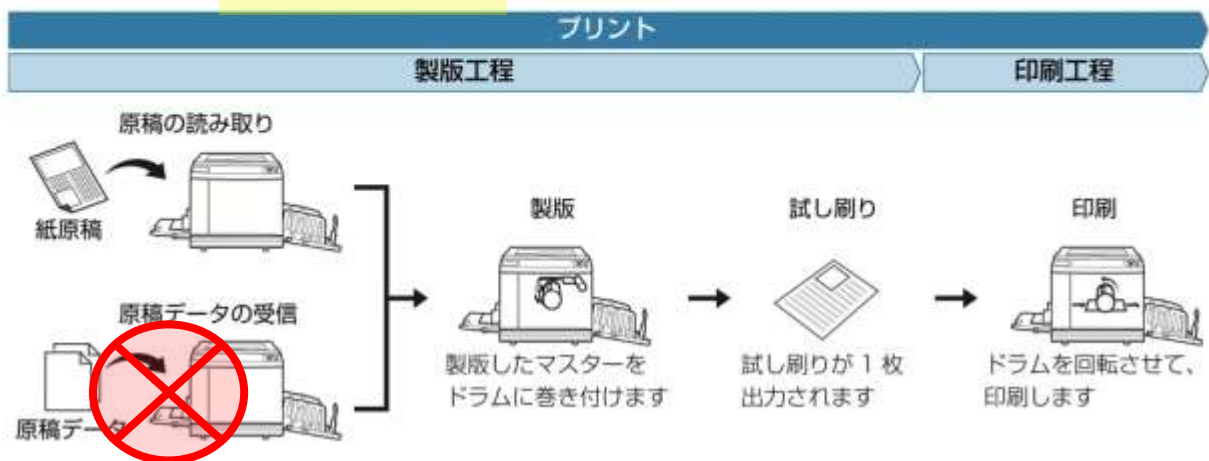
プリントの流れ(製版と印刷)

「製版」と「印刷」

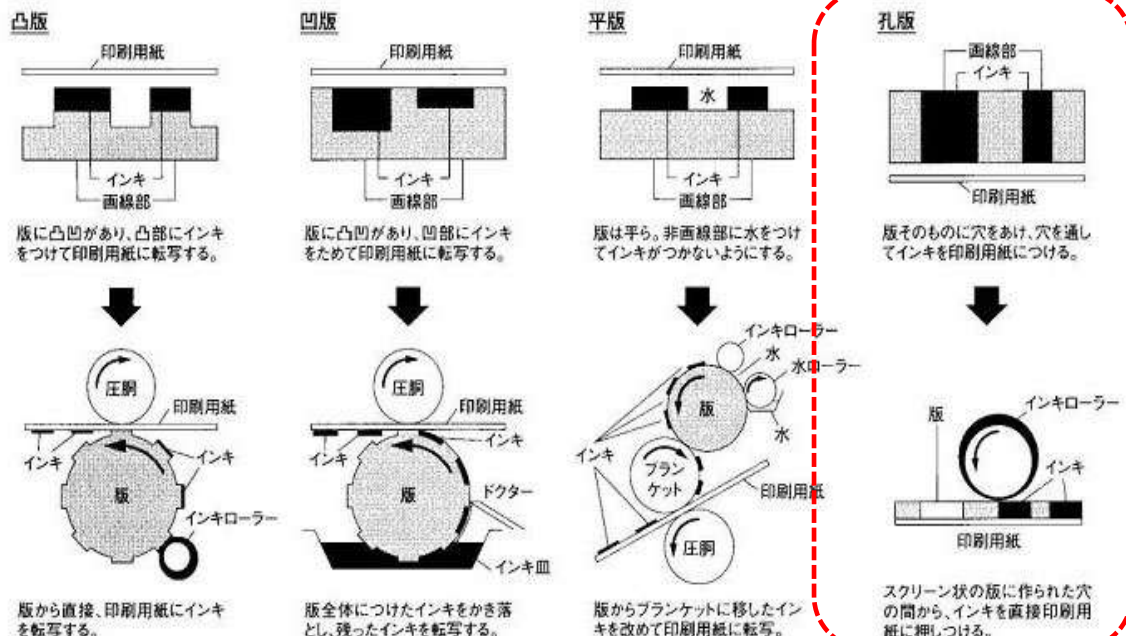
本機は、孔版印刷方式のデジタル印刷機です。孔版印刷とは、印刷の元となるマスター（版）に細かい孔（あな）を開け、そこから押し出したインクを用紙に転写する印刷方式です。

孔版印刷では、マスターを作ること「製版」、製版されたマスターを通してインクが染み出し、用紙に画像が転写されることを「印刷」と呼びます。

また、本書では、この「製版」と「印刷」の工程をまとめて「プリント」と呼びます。



（参考）印刷版式の原理と印刷方法



プリント前の準備①

(給紙台と用紙のセット)

プリント前の準備

給紙台と用紙のセット

1 給紙台を開く

給紙台に手を添えたまま、止まるまで開きます。



2 給紙台に用紙を置く

用紙は、印刷する面を上にしします。用紙をセットする向きは、原稿の向きと合わせます。

(□ 31「原稿をセットする」)



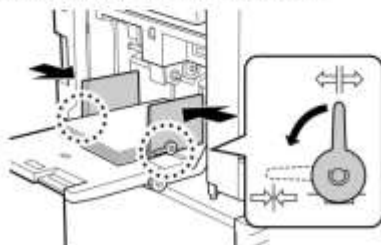
- ▶ 不適切な用紙の使用や、サイズが異なる用紙の混載はしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

(□ 14「用紙について」)

3 給紙フェンスを調節する

給紙フェンスの左右にあるロックレバーを立てると、給紙フェンスを手でスライドできます。

給紙フェンスを用紙にぴったりと合わせた後、左右のロックレバーを倒して固定します。

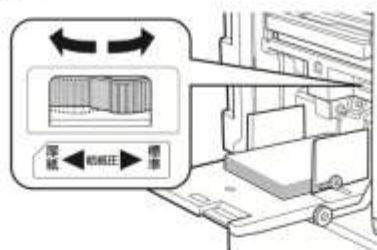


- ▶ 本機は、給紙フェンスの位置によって用紙サイズを識別しています。給紙フェンスを用紙にぴったりと合わせていないと、用紙サイズが正しく識別されません。

- ▶ 不定形サイズの用紙を使用する場合は、操作パネルで用紙サイズを指定してください。(□ 53「不定形の用紙を使う」[用紙サイズ])

4 給紙圧を調節する

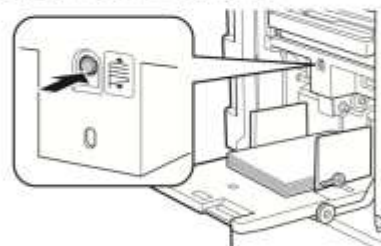
用紙の紙質に合わせて、給紙圧レバーを切り替えます。



レバー	紙質
標準	理想用紙、更紙、上質紙など
厚紙	画用紙などの厚紙、滑りやすい用紙

■ 用紙の追加と載せ替え

印刷の途中で用紙の追加や載せ替えを行うときは、給紙台上下ボタン (□ 18) を押します。給紙台が下がり、用紙の出し入れをしやすくなります。



- ▶ 紙質が異なる用紙に載せ替えたときは、給紙圧レバーを切り替えてください。
- ▶ サイズが異なる用紙に載せ替えたときは、排紙フェンスとストッパーも調節してください。



- ▶ 用紙がなくなったときや用紙をすべて取り除いたときは、給紙台が自動で最下部まで下がります。

■ 給紙台の閉じかた

1 用紙をすべて取り除く

用紙を取り除いた後、給紙台が最下部まで下がったことを確認します。

プリント前の準備② (給紙台の閉じ方)

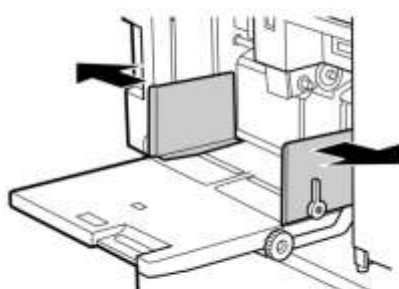
■ 給紙台の閉じかた

1 用紙をすべて取り除く

用紙を取り除いた後、給紙台が最下部まで下がったことを確認します。

2 給紙フェンスを端まで広げる

給紙フェンスのロックレバーを立て、給紙フェンスを手でスライドさせます。



3 給紙台を閉じる

プリント前の準備③ (排紙台のセット)

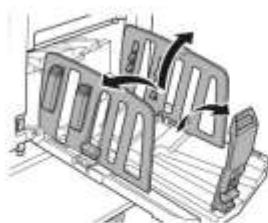
排紙台のセット

1 排紙台を開く

排紙台に手を添えたまま、止まるまで開きます。



2 排紙フェンスとストッパーを立てる

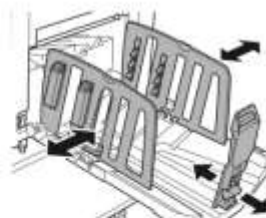


3 排紙フェンスとストッパーを用紙サイズに合わせる

排紙フェンスとストッパーは、下部を持ってスライドします。

排紙台についている目盛を目安として調整します。

ストッパーは、定形サイズの位置でカチカチと止まります。

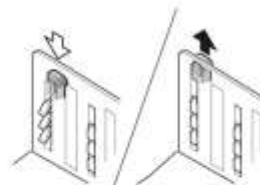


- ▶ 厚紙を使用するときは、排紙フェンスを用紙の幅より少し広めにセットしてください。
- ▶ 排紙フェンスの最適な位置は、紙質、印刷速度、使用環境などによって異なります。排紙台についている目盛は目安とし、印刷物の紙揃え状態に応じて排紙フェンスの位置を調整してください。
- ▶ 給紙台の左右位置を調整した場合は、排紙フェンスの位置も合わせてください。給紙台と排紙フェンスの位置が合っていないと、紙ぶまりの原因になります。

4 紙揃えプレートを調節する

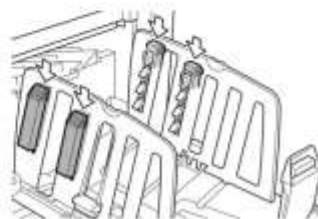
印刷物が揃うように、用紙に合わせて紙揃えプレートを調節します。

- ・ 紙揃えプレートを出すときは、紙揃えプレートノブを押します。
- ・ 紙揃えプレートをたたむときは、紙揃えプレートノブを引き上げます。



■ 通常の用紙の場合

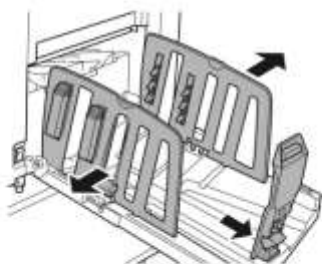
4つの紙揃えプレートをすべて出します。



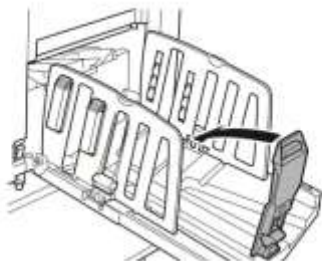
プリント前の準備④ (排紙台の閉じ方)

■ 排紙台の閉じかた

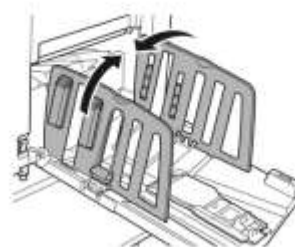
- 1 印刷物をすべて取り除く
- 2 排紙フェンスとストッパーを端まで広げる



- 3 紙揃えプレートを手でたたむ
- 4 ストッパーを内側に倒す



- 5 排紙フェンスを内側に倒す



- 6 排紙台を閉じる



紙原稿をセットする

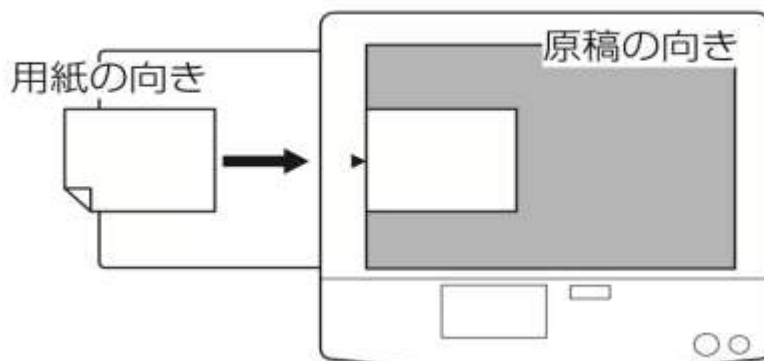
原稿をセットする

原稿台ガラスまたは自動原稿送り装置（オプション）を使って、原稿を読み取ることができます。

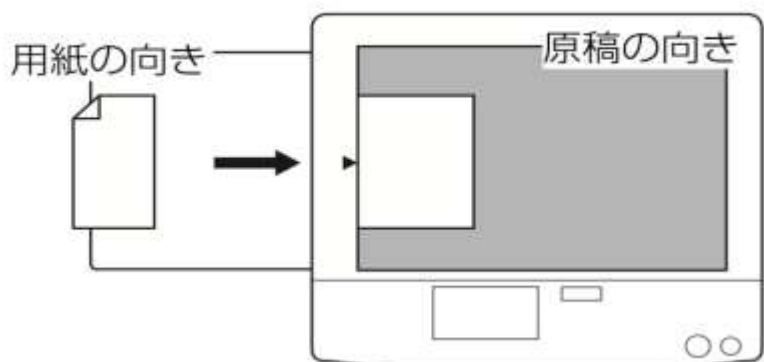
■ 原稿と用紙の向きの関係

原稿と用紙の向きは、以下のように合わせます。

短辺給紙



長辺給紙



紙原稿をプリントする

紙原稿をプリントする

ここでは、紙の原稿を読み取ってプリントする操作手順を説明します。

1 本機の電源が ON になっていることを確認する

電源スイッチの [I] を押します。

参考 ▶ 認証画面 (□ 22) が表示された場合は、画面の指示に従ってください。

2 製版基本画面が表示されていることを確認する

製版基本画面以外が表示されている場合は、[製版] キー (□ 21) を押します。



3 原稿をセットする

(□ 31 「原稿をセットする」)

参考 ▶ 原稿を自動原稿送り装置にセットした場合、製版基本画面の [原稿] に、セットした原稿のサイズが表示されます。セットした原稿と異なるサイズが表示されている場合は、再度セットします。

4 用紙を確認する

(□ 28 「給紙台と用紙のセット」)

参考 ▶ 製版基本画面の [用紙] に、セットした用紙のサイズが表示されます。セットした用紙と異なるサイズが表示されている場合は、再度セットします。
▶ 製版基本画面の [用紙] の横に、給紙圧レバーの位置 (□ 28) が表示されます。

5 排紙台を確認する

(□ 29 「排紙台のセット」)

6 [連続] の設定を確認する

(□ 26 「[連続] とは」)

参考 ▶ 自動原稿送り装置 (オプション) に原稿をセットすると、[連続] が自動的に ON になります。
[環境設定] の [AF 連続自動設定] (□ 106) で、初期設定を変更できます。

7 製版条件を設定する

(□ 44 「製版するときに設定する機能」)
(□ 78 「便利な機能」)

8 テンキーで印刷枚数を入力する

注意 ▶ 連携機 PrioA (別売) を接続してお使いの場合、印刷枚数に応じて出力先が切り替わる [自動振り] 機能が働きます。
(□ 96 「連携機を利用する」)

9 [スタート] キーを押す

製版が開始され、試し刷りが 1 枚排出されます。

参考 ▶ アイドリング (インクをなじませる動作) が自動的に実行されることがあります。

10 印刷条件を設定する

試し刷りを見て、印刷位置や濃度などを確認します。

(□ 66 「印刷するときに設定する機能」)

参考 ▶ [試し刷り] キーを押すと、再度試し刷りで仕上がりを確認できます。
長期間使用していないとドラム上のインクが乾き、プリントしたときに色がかすれたり薄くなったりすることがあります。その場合は、インクをなじませるため、何枚か試し刷りをしてください。[試し刷り] キーを押しつつ続けると、連続して試し刷りできます。

11 [スタート] キーを押す

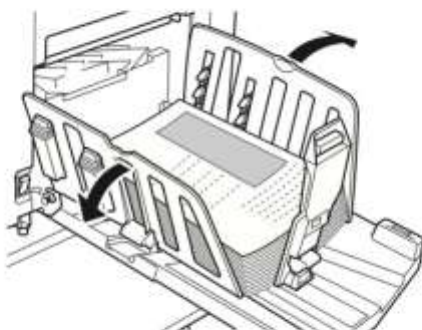
印刷が開始されます。

参考 ▶ 印刷を中断したいときは、[ストップ] キーを押します。

印刷物を取り出す

12 印刷物を取り出す

排紙フェンスを外側に倒すと、印刷物を取り出しやすくなります。



参考

- ▶ 追加印刷したい場合は、印刷枚数を入力して「スタート」キーを押します。
- ▶ 次の原稿の製版に移りたい場合は、手順 3 から繰り返します。

製版時の画像処理機能

■ 画像処理に関する機能

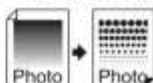
【原稿モード】 (☐ 45)

原稿の種類に適した処理を設定できます。



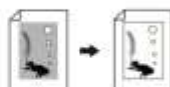
【網点】 (☐ 47)

写真の階調を表現するための処理方法を設定できます。



【コントラスト強調】 (☐ 47)

明暗がはっきりしない写真を、鮮明な仕上がりにすることができます。



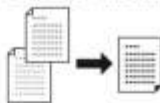
【トーンカーブ選択】 (☐ 48)

写真などの明るい部分と暗い部分の調子を調整できます。



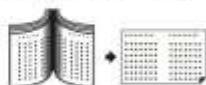
【読取濃度】 (☐ 48)

原稿の地色や濃淡にあわせて、読取濃度を調節できます。



【ブックモード】 (☐ 49)

冊子のとじ部分の影を消去または薄くできます。



【省インク】 (☐ 50)

インク消費量を抑える処理ができます。

【速度優先製版】 (☐ 51)

製版時間を短縮できます。

■ レイアウトに関する機能

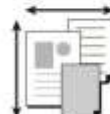
【変倍】 (☐ 51)

原稿を拡大または縮小できます。



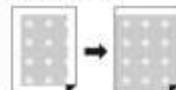
【用紙サイズ】 (☐ 53)

不定形の用紙サイズを選択できます。



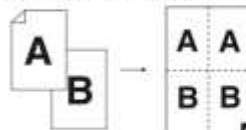
【フルサイズ製版】 (☐ 54)

最大印刷範囲に製版できます。



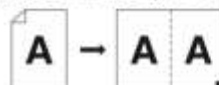
【連写】 (☐ 54)

1 枚の用紙に原稿を複数割り付けられます。



【かんたん連写】 (☐ 58)

1 枚の用紙に原稿を 2 面割り付けられます。



【レイアウト原稿】 (☐ 59)

原稿の先端部分をカット（トリミング）できます。



【AF とじ代設定】 (☐ 59)

左右の製版位置を調整できます。



【プレビュー表示】 (☐ 60)

製版前に仕上がりイメージを確認できます。

製版時の画像処理機能(原稿モード①)

原稿に適した画像処理をする 【原稿モード】

原稿の種類に適した処理を選択することによって、より鮮明な画像を得ることができます。

参考 ▶【環境設定】の【原稿モード基本設定】(□ 106)で、初期設定を変更できます。

1 【基本】タブ画面で【原稿】をタッチする

2 原稿の種類を選択する



■【文字】

写真を含まない原稿に適しています。

参考 ▶ 以下の機能とは併用できません。
• 【網点】(□ 47)
• 【コントラスト強調】(□ 47)
• 【トーンカーブ選択】(□ 48)

■【写真】

写真の鮮明さを重視したい場合に適しています。

参考 ▶ 【読取濃度】(□ 48)の【オート】とは併用できません。
▶ 【網点】(□ 47)で、写真の階調を表現するための処理方法を変更できます。
▶ 【コントラスト強調】(□ 47)で、明暗がはっきりしない写真を、鮮明な仕上がりにすることができます。
▶ 【トーンカーブ選択】(□ 48)で、明るい部分と暗い部分の調子を調節できます。

■【文字・写真】

文字と写真の鮮明さを両立したい場合に適しています。

参考 ▶ 以下の機能とは併用できません。
• 【読取濃度】(□ 48)の【オート】
• 【コントラスト強調】(□ 47)
▶ 【網点】(□ 47)で、写真の階調を表現するための処理方法を変更できます。
▶ 【トーンカーブ選択】(□ 48)で、明るい部分と暗い部分の調子を調節できます。

■【えんぴつ】

えんぴつで書かれた原稿や、朱肉のスタンプなどの薄い原稿に適しています。

参考 ▶ 以下の機能とは併用できません。
• 【網点】(□ 47)
• 【読取濃度】(□ 48)の【オート】
• 【コントラスト強調】(□ 47)
▶ 【トーンカーブ選択】(□ 48)で、明るい部分と暗い部分の調子を調節できます。

製版時の画像処理機能(原稿モード②)

3 詳細な種類を選択する

〔文字〕以外を選択した場合は、詳細な種類を選択します。

■〔写真〕を選択した場合

種類	説明
〔標準〕	下記の〔顔写真〕に該当しない場合に適しています。
〔顔写真〕	2人までのバストアップ写真に適しています。 (特に顔がきれいにプリントされるように画像処理します。)

■〔文字・写真〕を選択した場合

種類	説明
〔標準〕	文字と写真をバランスよく再現したい場合に適しています。色のついた原稿にも適しています。
〔文字優先〕	文字の鮮明さを際立たせたい場合に適しています。建物や金属の光沢のように、コントラストがハッキリした写真を含む場合にも適しています。
〔写真優先〕	食品や人物のように、階調の滑らかさを重視したい写真を含む場合に適しています。
〔下地カット〕	原稿の下地色を消去します。 新聞紙のように下地色のある原稿に適しています。 〔下地カット〕は、他の選択肢と同時に選択できます。

■〔えんぴつ〕を選択した場合

種類	説明
〔こいめ〕	薄い文字を鮮明にしたい場合に適しています。
〔うすめ〕	薄い文字を鮮明にすることと、切り貼りの影を抑えることを両立したい場合に適しています。

4 〔確定〕をタッチする

製版時の画像処理機能(写真原稿①)

写真の階調の処理方法を選択する 【網点】

写真の階調を表現するための処理方法を設定できます。



▶ 【網点】を設定できるのは、【原稿モード】
（□ 45）を【写真】または【文字・写真】に設定
しているときだけです。

1 【機能一覧】タブ画面で【網点】をタッチする

2 設定したいボタンをタッチする



■ 【OFF】

写真の階調が誤差拡散法で処理されます。
不規則に配置される点の密度の変化によって、
階調が表現されます。

■ 【1】～【4】

写真の階調が網点で処理されます。
規則的に配置された点の大きさの変化によって、
階調が表現されます。

【1】：106 線相当

【2】：71 線相当

【3】：53 線相当

【4】：34 線相当

3 【確定】をタッチする

写真の明暗を調節する 【コントラスト強調】

明暗がはっきりしない写真を、鮮明な仕上がりにすることができます。



▶ 【コントラスト強調】を設定できるのは、【原稿モード】
（□ 45）を【写真】に設定しているとき
だけです。

1 【機能一覧】タブ画面で【コントラスト強調】をタッチする

2 設定したいボタンをタッチする



■ 【OFF】

【コントラスト強調】の処理がされません。

■ 【うすめ】

濃い部分が、より鮮明になります。
写真全体が暗く、暗い被写体がはっきりしない場合に適しています。

■ 【こいめ】

薄い部分が、より鮮明になります。
写真全体が明るく、明るい被写体がはっきりしない場合に適しています。

3 【確定】をタッチする

製版時の画像処理機能(写真原稿②)

写真の階調を調節する 【トーンカーブ選択】

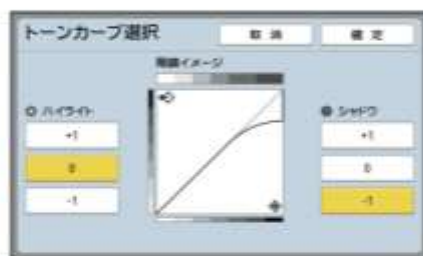
写真の明るい部分と暗い部分の調子を、段階的に調節できます。



▶ 【トーンカーブ選択】を設定できるのは、[原稿モード] (□ 45) を [文字] 以外に設定しているときだけです。

1 【機能一覧】タブ画面で【トーンカーブ選択】をタッチする

2 設定したいボタンをタッチする



■ 【ハイライト】

写真のうち、明るい部分の表現を調節します。

設定	説明
[+1]	明るく表現される範囲が狭くなります。
[0]	標準的な処理が適用されます。
[-1]	明るく表現される範囲が広くなります。 明るい部分の細部が飛ぶことがあります。

■ 【シャドウ】

写真のうち、暗い部分の表現を調節します。

設定	説明
[+1]	暗く表現される範囲が広くなります。 暗い部分の細部がつぶれることがあります。
[0]	標準的な処理が適用されます。
[-1]	暗く表現される範囲が狭くなります。

3 【確定】をタッチする

製版時の画像処理機能(読取濃度)

原稿の読取濃度を調節する 【読取濃度】

原稿の下地色や文字の濃淡などに合わせて、読取濃度を調節できます。

参考

- ▶ [環境設定] の [読取濃度基本設定] (☞ 106) で、初期設定を変更できます。
- ▶ [省インク] (☞ 50) が ON のときは、[読取濃度] は変更できません。

1 [基本] タブ画面で【読取濃度】をタッチする

2 設定したいボタンをタッチする



■ 【オート】

[原稿モード] (☞ 45) で [文字] を選択している場合にだけ、選択できます。

【オート】に設定すると、原稿の下地色に合わせて、最適な読取濃度に調節されます。

■ 【1】～【5】

5段階で調節できます。

【1】に設定すると、最も薄くなります。

【5】に設定すると、最も濃くなります。

3 [確定] をタッチする

製版時の画像処理機能(固定変倍)

原稿を拡大／縮小する [変倍]

原稿を拡大または縮小して読み取ることができます。



- ▶ 製版範囲より外側の画像はプリントされません。
(☞ 15 「製版範囲」)



- ▶ [環境設定] の [変倍基本設定] (☞ 106) で、初期設定を変更できます。
- ▶ [環境設定] の [周囲余白縮小率] (☞ 107) で、[周囲余白] の縮小率を変更できます。
- ▶ 以下の機能とは併用できません。
 - [速度優先製版] (☞ 51)

設定のしかたは、以下の 3 種類から選択できます。

- [固定変倍]：変倍率を選択するだけで設定できます。
- [独立変倍]：天地と左右の変倍率を、任意に設定できます。
- [ズーム変倍]：天地と左右の比率を変えずに、任意の変倍率を設定できます。

[固定変倍]

1 [基本] タブ画面で [変倍] をタッチする

2 設定したい変倍率をタッチする



- ① [オート]：給紙台にセットされている用紙サイズに合わせて、自動的に拡大／縮小されます。原稿を自動原稿送り装置にセットしていて、原稿と用紙の両方が定形サイズの場合にだけ使えます。
- ② [固定変倍]：定形サイズから定形サイズへの代表的な変倍率から選択できます。
- ③ [周囲余白]：選択されている変倍率に、さらに周囲余白の縮小率を掛け合わせます。

3 [確定] をタッチする

製版時の画像処理機能 (独立・ズーム変倍)

【独立変倍】

- 1 【基本】 タブ画面で【変倍】をタッチする
- 2 【独立変倍】をタッチする
- 3 変倍率を変更する



以下のどちらの方法でも変更できます。

- ・テンキーで数値を入力する
- ・[▲] [▼] をタッチする

参考 ▶ [C] キーを押すと、[100%] に戻ります。

- 4 【確定】をタッチする

【ズーム変倍】

- 1 【基本】 タブ画面で【変倍】をタッチする
- 2 【ズーム変倍】をタッチする
- 3 変倍率を変更する



以下のどちらの方法でも変更できます。

- ・テンキーで数値を入力する
- ・[▲] [▼] をタッチする

参考 ▶ [C] キーを押すと、[100%] に戻ります。

- 4 【確定】をタッチする

製版時の画像処理機能(原稿連写①)

1 枚の用紙に原稿を複数割り付ける [連写]

1 枚の用紙に原稿を複数割り付けることを「連写」といいます。用紙を節約したいときや伝言メモ用紙などをプリントするときに便利です。

参考

- ▶ 以下の機能とは併用できません。
 - [ブックモード] (□ 49)
 - [レイアウト原稿] (□ 59)
 - [速度優先製版] (□ 51)

■ [1 原稿連写]

1 枚の用紙に、1 枚の原稿を複数割り付けます。



■ [多原稿連写]

1 枚の用紙に、2 枚または 4 枚の原稿を複数割り付けます。



※1：2 枚の原稿を割り付けられます。

※2：4 枚の原稿を割り付けられます。

[1 原稿連写] [多原稿連写]

1 原稿をセットする

割り付ける面数に応じて、原稿をセットする向きが異なります。

2 面 - 8 面の場合：



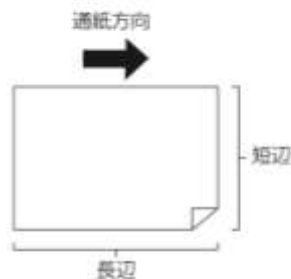
4 面 - 16 面の場合：



▶ 原稿台ガラスと自動原稿送り装置（オプション）の併用はできません。最初の原稿を原稿台ガラスにセットした場合は、残りの原稿も原稿台ガラスにセットしてください。

2 用紙をセットする

矩辺給紙になるようにセットします。



▶ 定形用紙を使用してください。不定形用紙や [環境設定] でサイズ登録した用紙は、使用できません。

3 排紙台をセットする

(□ 29「排紙台のセット」)

4 製版基本画面が表示されていることを確認する

製版基本画面以外が表示されている場合は、[製版] キー (□ 21) を押します。

製版時の画像処理機能(原稿連写②)

5 【機能一覧】タブ画面で【連写】をタッチする

6 原稿サイズをタッチする



注意 ▶ 4面・16面の場合は、□が表示されている原稿サイズをタッチします。

参考 ▶ 選択した原稿サイズと、セットされている用紙のサイズから、変倍率が自動的に算出されます。変倍率が50～200%の範囲から外れる組み合わせは使用できません。

7 【次へ】をタッチする

8 【1原稿】または【多原稿】をタッチする



9 【次へ】をタッチする

10 割り付ける面数をタッチする



参考 ▶ 画面下部に表示されている通りの向きに、原稿がセットされていることを確認します。

11 【確定】をタッチする

12 その他のプリント条件を設定する

(☞ 44 「製版するときに設定する機能」)

参考 ▶ 【連写】を解除するには、もう一度手順5を行って設定画面を表示させます。【OFF】をタッチしてから【確定】をタッチします。

13 【スタート】キーを押す

原稿の読み取りが開始されます。
以降は、通常の紙原稿のプリントと同様に操作します。

(☞ 32 「紙原稿をプリントする」)

次の原稿のセットを指示するメッセージが表示された場合は、次に読み取る原稿をセットして【スタート】キーを押します。

参考 ▶ 次の原稿をセットせずに一定時間が経過すると、自動的に製版が始まります。読み取られなかった分は余白になります。この一定時間を【連写待ち時間】と呼びます。工場出荷時は15秒に設定されています。【環境設定】の【連写待ち時間】(☞ 107)で変更できます。